

# 美は時空を超えて

ひなせ  
日生諸島探訪の船旅と  
个性的美術館・博物館めぐり

(JR赤穂線をたどって)

野崎 芳信

## 一、岡山的美術館・博物館

岡山県には、広く知られた大原美術館をはじめ、他の都道府県以上に多様でユニークな施設が揃っている。世界の海の道につながっている地形の結果、農業・漁業・鉱業・工業・交易などの各分野で活躍の広がりが生まれた。岡山独自の文化財や世界中の文物を集める収集家が育ち、その収集品が公的にも私的に広く公開されるに至っている。ひとつひとつの施設を、時間をかけてじっくり見てまわるのも楽しいが、自分なりのテーマで訪ねるのも面白い。

岡山県博物館協議会事務局編集

正宗敦夫との交流から、与謝野晶子も訪れ、舟遊びのときに

妻恋の鹿海こゆる話きき

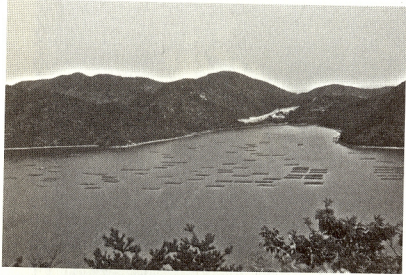
それかと見れば 沖のつる嶋

との歌を残している。

これは明治二年になって長崎から流されてきたキリシタンが流刑者として拷問等で苦勞した「鶴島」(現在は無人島となり、殉教者碑と白いマリヤ像が残っている)を眺めて歌ったもの。

与謝野夫妻に做つて下林利勝氏の案内で海上タクシーで島巡りを行なった。一番南の「大多府島」には、元禄

日生鹿久居島と牡蠣いかた



与謝野晶子の歌碑



の「おかやま博物館めぐりの旅のパンフレットを手に入れて、紙上で空想の旅に思いを馳せることもできる。今回は、縦軸に時間軸(歴史・空間軸(地理)・多面性の軸(分野)の視点をあて、横軸にJR赤穂線を置いて旅をした。

岡山博物館めぐりとして、テーマの立て方として、瀬戸内海港めぐり(海)・川筋の土木構造物をたどる(川)・備前焼窯跡探訪(山)などを設定しても興味深い。

## 二、JR赤穂線

JR赤穂線の区間は、東岡山から兵庫県相生まで距離57.4キロメートル所要時間九十分前後の単線直流方式の全線電化区間である。山陽新幹線のほぼ一駅区間の間に19駅が設置されている。

そもそも赤穂線は岡山・兵庫県境の船坂峠という難所を抱えた山陽本

線の代替線として計画されたが、昭和二六年の一部開業以来全通の昭和三七年度まで十一年を要する間に、山陽本線の輸送力増強が完了、結果として地域のためのローカル線との役割を位置づけられてきた。兵庫側は工業地帯を走っているが、岡山県に入ると、海あり山あり田圃ありの変化に富んだ路線となっている。

現在の列車運行形態は、線区にこだわらないものとなっている。兵庫県側の播州赤穂までは、東海道線の新快速列車が毎時乗り入れているほか姫路からの直通列車も多い。本数は限られているが、京阪神からの便は格段によい。それらに播州赤穂駅で接続している列車は、岡山経由で山陽本線(三原・伯備線(新見)方面に直通運転されており、鉄道の要衝の地の片鱗を感じさせる。

## 三、日生諸島

岡山県に入って二番目の駅が「日生」だ。駅前からは、全島が瀬戸内海国立公園に指定されている日生諸島が眼前に広がっている。小豆島へのフェリーの栈橋も、国道を渡つてすぐだ。

十一年に岡山藩主池田綱政侯が郡代津田永忠(閑谷)学校の建設にもあたつたに命じて築港した。現在でも当時作られた石積みの防波堤が国指定の文化財として残って現役で利用されている。この他当地に寄航した多人数のために飲み水を供給した井戸など多数の遺跡が残っており、島内歴史散策も可能だ。この島は、一時期関西の海水浴場として賑わつたが、日本海側の海に取られてしまった。現在は日本第三の産地となった牡蠣の養殖が主たる産業になっている。

日生諸島は、全島で十二島あるが、その中で五島に船で渡ることができる。諸島の中心部に所在する人口が最も多い「頭島」と県下最大の島鹿久居島間は、頭

島大橋で繋がっている。加えて、本土の日生から面積最大の「鹿久居島」までの橋の工事が始まったが、完成までは十年近くかかる予定。

「鹿久居島」には堅穴式住居・高床式住居に泊つて古代人の生活を体験できる、備前市の施設である古代体験の郷「まほろば」がある。体験型学習として人気があり、海洋型縄文文化体験は、家事に縁の無い最近の若者にとっては得がたいものだ。火おこし体験・カヌー体験・土器作り・貝殻細工など古代人の貫頭衣を着ての活動は得がたい経験になる。受け入れ側に準備が必要なので、事前の予約が必要。食事も古代の材料を使って自炊で古代食を作ることになる。

展望のよい「鴻島」からは、牛窓方面の景色が抜群。多数の別荘で賑う。日生諸島はどこから眺めても絵になるが、「港の見える丘公園」または「夕立受山」からの瀬戸内海の景色が特に素晴らしい。

## 【BIZEN中南米美術館】

日生駅から徒歩七分。日本唯一の古代中南米専門美術館。収蔵品の中心は古代アメリカ大陸で、紀元前十数世紀以降近世に至るまで各時代各地方で作られた土器・土偶・石彫・織物等で千六百点に及ぶ。その中から、



加子浦歴史文化館

DATA

加子浦歴史文化館

備前市日生町日生 801-4

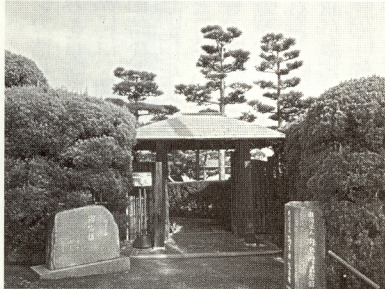
TEL 0869-72-9026 開館10:00~17:30

休館 毎週火曜日(休日の場合翌日)、

年末年始

料金 大人 300 円、小人 100 円

URL <http://www.city.bizen.okayama.jp/kankou/guide/hinase/spot/hondo/kakonoura.ljsp>



藤原啓記念館

た歴史的経緯や当時の漁の姿が描かれた絵が展示されている。その後たびたびの逆境にも、朝鮮半島からシンガポールまで魚を求めて進出(現地に拠点を設ける)したり、内航海運業タンカーへ進出したり、養殖漁業(牡蠣など)から栽培漁業まで進出してきた歴史が展示されており、日生漁民のバイタリテイに脱帽する。

蔵造りとなっており、独特のデザインは、整備された庭とあわせてゆっくり拝見したい。

四、片上

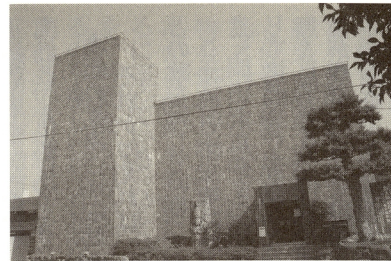
と名付けられたサイクリングロードとして平成十五年に復活している。鉄道の設備も多数残されているとのことで、ゆっくり走破してみたい。

【藤原啓記念館】

片上・伊部駅から車で十分の片上湾を望む高台の藤原啓最後の窯場(現在孫の藤原和の窯に建てられている。松と芝生の前庭からの瀬戸内海の景色は見ていて飽きない。正宗白鳥の生家のある伊里(毎週日曜日に開かれる漁港の町・朝市の真魚市)まで歩いてみてください。

備前焼の五人の人間国宝作家の一人である藤原啓の備前焼や書の作品と、古備前をはじめとする多様な収集品が展示されている。もともと作家(書家)であったことから、私立閑谷中学中退後地元で代用教員を勤めたのち出奔し、東京の博文館の編集部で働き文学者としての活動を開始した。

病氣療養のため郷里に引き上げ三十九歳から備前焼に手を染めた。初窯は昭和十四年、四



BIZEN中南米美術館の外壁は1万6千枚の備前焼陶板で覆われている。

常設品に企画にあわせ選ばれた百数十点の美術品が展示されている。日生で魚網の製造・販売を営み、ペルーを始めとする中南米にも営業を展開していた、故森下精一氏が商用の旅の都度集めたコレクションの寄贈を受け、昭和五十年三月に開館したもの。平成十七年には開館二十年を祝って、多彩な企画が行なわれた。このような特色ある美術館が、地方で活躍できるのも、優秀な日生の魚網が世界に広がった活躍の場と、備前焼のコレクターとしての確たる目で集めた収集品の存在が大きい。更に、本年米国生まれのナショナルジオグラフィック

イック誌に掲載される程の調査活動の活発さによるところも大きい。美術館の建物は、備前焼陶板約一万六千枚で覆われた外壁でも有名なこの陶板は、地元備前焼作家故藤原建氏の製作したものであり、それだけでも贅沢だ。備前独特の自然な風合いが、玄関の石彫レプリカや松と相まってひとつの美術品として存在感を示している。

DATA

BIZEN中南米美術館

備前市日生町日生 241-10

TEL 0869-72-0222

開館9:00~17:00

(入館は 16:30 まで)

休館 毎週月曜日(休日の場合翌日)、年末年始

料金 大人 500 円、大・高生 400 円、中・小学生 250 円

URL <http://www.latinamerica.jp>

【加子浦歴史文化館】

日生駅から徒歩二十分、朝市で有名な「新五味の市」前の高台に平成九年に建てられた日生の歴史を知ることが出来る施設だ。兵庫県の室津港の本陣宅吉田家の建物を移築した資料館と、日生ゆかりの文学者や著名人の紹介している文芸館の二つの建物で構成されている。

資料館の方では、新石器時代から製塩や漁業で栄え天平年間(海)の道として特に明治期以降に日生の漁民が卓越したアイデアで独自の漁を編み出し、広く阪神方面(魚)を供給してき

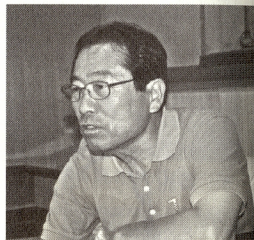
DATA

**岡山県備前陶芸美術館**  
 備前市伊部 1659-6  
 TEL 0869-64-1400  
 開館 9:30~17:30  
 休館 毎週月曜日(休日の場合翌日)、年末年始  
 料金 大人 500 円、高大生 400 円、小中生 250 円  
 URL <http://www.optic.or.jp/bizenyaki/touyuukai/tougebijyutukan.htm>

四階の現代作家代表作品展は、また新しい作風を一堂に会する楽しさを味わえる。ちよつと頑張れば、好きな作家を選ぶこともできる。興味があれば、陶友会のホームページをながめることをお奨めする。伊部駅舎の三階備前焼伝統産業会館では展示してある作品を購入することが可能だ。毎年十月に開催される陶器市で掘出し物を探し出すのも楽しい。陶友会の広報部長でもある、備前市閑谷に窯を持つ作家の吉本正さんは、備前焼の需要喚起のため全国を行脚している。かつての先輩方の活動で恩恵を被った恩返しをしているとのこと。いい作品は、窯出しに参加して手に入れる方法もある。日程は陶友会のホームページで確認できる。

**【備前長船刀剣博物館】**  
 長船から車で七分の道路沿いに日本伝統美術工芸の粋を極めた日本刀の博物館はある。刀鍛冶が行なう鍛刀鍛造だけでなく研磨加工、鞘製作(木工・漆工芸、刀身彫り(金属加工))

**六、長船**  
 長船は、古備前の窯のあつた土地でもある。砂鉄の産地である中国山地から吉井川の水運により原料が持ち込まれた長船には多くの刀鍛冶が居住した。平安時代末期に「土備前」と呼ばれた刀鍛冶が備前刀の基礎を確立、高い技術水準を誇る刀剣王国を築きあげた。福岡一文字派・吉岡一文字派などがあつたが、現在は長船派の技術が残されている。



陶芸作家 吉本 正さん

陶友会 URL  
<http://www.optic.or.jp/bizenyaki/touyuukai/>

DATA

**備前長船刀剣博物館**  
 瀬戸内市長船町長船 966  
 TEL 0869-66-7767  
 開館 9:00~17:00(入館は 16:30 まで)  
 休館 毎週月曜日(休日の場合翌日)、年末年始  
 料金 大人 500 円、高大生 300 円、小中生 無料  
 URL <http://www.city.setouchi.lg.jp/~osa-token/>

これで紀元前十数世紀から現代まで、地球の裏側から日本まで、怪獣から人間まで、多様な博物館の旅はこれにて一休み。

DATA

**藤原啓記念館**  
 備前市穂波 3868  
 TEL 0869-67-0638  
 開館 10:00~16:30  
 休館 毎週月曜日(休日の場合翌日)、冬季休館あり  
 料金 大人 700 円、中高生 400 円  
 URL <http://www.fujiwarabizen.com/>

十歳でのデビューは遅咲きだ。昭和四五年には人間国宝に指定され、昭和五八年に亡くなるまで国内の陶芸家を始めとした多方面の芸術家たちの交友だけでなく、世界を股にかけて活躍をしている。作風はてらいが無く極めて自然風の安らかな作風だ。酒を愛し、友との語らいを楽しんだ人生を、残された作品を介して共有できる場としては好適な記念館だ。展示してある作品は、氏の残した作品の一部にしか過ぎないが、心に染み入る展示となつている。記念館の近辺には、気心の合つた収集家が多いそうだ。それぞれの方々の氏の作品を楽しむ様子を思い浮かべることが出来る。

**五、伊部**  
 駅前からレンガ造りの煙突が何本も見える町並みを見渡すことが出来る。南側の山裾には、備前焼最盛期といわれる桃山時代の共同登り窯、伊部南大窯跡(国指定史跡)がある。陶片が沢山残されている。北側の不老山の中腹にも、比較的近年まで使用していた天保窯や北大窯跡がある。それらを過ぎると、陶工たちの神様である天太玉命が祀つてある忌部神社が林の中に静かにたたずんでいる。伊部の街を見晴らせる展望台もすぐ上だ。そこから少し下ると、医薬・病氣平癒の神様少彦名命を祀る氏神の天津神社に出る。備前焼に彩られた神門や塀、狛犬は独特の雰囲気を出している。

**【岡山県備前陶芸美術館】**  
 伊部駅前の備前焼陶友会を中心に作つた、備前焼の普及と振興を図り、地域文化の向上に寄与する目的の美術館。古備前から現代に至る作品及び備前焼に関する資料を一堂に集め、展示・公開・解説している。焼物の美術館としては、珍しく民間の作つたもの

展示品は、日本中から時々のテーマで集めた刀剣類で、国宝クラスは少ないものの貴重なものが出展されると評判である。製作サイドの専門家の選んだ刀剣は、まさに見ごたえがある。隣接する「備前おさふね刀剣の里」では、それぞれの職人が作業をしている工房を見ることが出来るようになっている。刀匠の作業は、寒い冬に限られており、事前に確認を取っておくことが必要だ。日本刀の購入は、一定の手続きを行なえる人ならば誰にでも可能だ。

二階の古備前名品展には、感激するほど多数の古来の名品が置かれている。地域の収集家の懐の深さに今更ながら驚かされる。

三階の人間国宝代表作品展では、五人の人間国宝(金重陶陽、藤原啓、山本陶秀、藤原雄、伊勢崎淳)の作品が展示されている。これだけのまとまつた展示ができるのも、陶友会の協力の結果といえよう。各作家の特徴を明確に知ることが可能だ。



陶芸の里、伊部駅前そびえる岡山県備前陶芸美術館